

糸田の祭

まつり
いとだ



糸田祇園山笠

300年以上続く伝統行事で、毎年5月第2土・日曜日に行われます。各地区が高さ最大で9メートル・重さ2トン以上の飾り山笠を担ぎ、町内を練り歩く勇壮な祭りです。



田植祭

毎年3月15日に金村神社で行われる豊作祈願の春祭りです。神官が五穀豊穡の祝詞を奏上し、模擬農耕行事・地元の女子による田植舞の奉納などが行われます。

1 道の駅いとだ

【おじゅごんち市場からすお】



マスコットキャラクター「おかつ」

田川の西の入り口に位置し、毎日新鮮な農産物などが並んだ直売所と、食事が摂れるフードコートが併設されています。毎月15日前後には、おじゅごんちの語源となった田植祭にちなみ『おじゅごんち市』が開催されます。



物産品直売所



フードコート

2 たぎり 泌泉



水田地帯に石の鳥居と石垣をめぐらせた小さな池で、関の山一帯に降った雨水が地下の石灰岩水脈をくぐり抜けて湧出しています。伝説では、糸田町の地名の起こりとされています。

3 山頭火句碑



山頭火陶像(文化会館内)



1 旧鳥尾峠街道国境石付近

2 伯林寺境内

3 町民会館付近

4 観世苑敷地内

5 木村録平旧居跡付近

6 糸田小学校付近

7 皆添橋レリーフ

8 鉦長坂付近

種田山頭火をして「逢ひたい捨炭山が見えだした」と詠ませるほど、経済的・精神的な交流が深かったのが、明治豊国病院の内科医であった木村録平です。二人の文芸活動を記念した皆添橋のレリーフなど、町内には山頭火に関する石碑が多数あります。

4 金村神社天井絵



神社拜殿の天井には15枚の絵がはめ込んであります。これは「金村神社天井絵」といって、70センチ真四角の杉板の材料に虎・猫・鳥などの代表的な動物の絵や、花菖蒲や水仙などの草木面を取り混ぜて色彩鮮やかに描かれています。

5 千人塚

大勢の人が犠牲となった享保の大飢饉の供養塚です。塚は鼠ヶ池地区にあり、側面には享保17年(1732)に稲が腐り、老若男女44人が餓死したという意味の碑文が刻まれています。



6 岩屋古墳

鼠ヶ池地区の丘陵突端部に位置しており、平成8年8月に発掘調査されました。古墳の築造時期は6世紀後半だとされています。副葬品としては、須恵器の提瓶・大壺の破片・土師器などが出土しています。



7 みぞうて 水落の滝



道の駅いとだから、国道201号線を飯塚方面に少し進んだ場所にある風光明媚なスポットです。

8 糸田城址



鎌倉時代末期、豊前国守護(地方の軍事、警察などを担当する職)だった糸田貞義が居城したとされています。

9 一石五輪塔



①一石五輪塔(梵字入り)

②一石五輪塔(完成品)

③五輪塔の一部(空・風輪)

④五輪塔の一部(空・風輪)

糸田城址にある祠の中に納められていたもので、中世後期のものと考えられており、九州では非常に珍しいものといわれています。資料は町民会館に展示されています。

10 国境石

旧鳥尾峠街道に所在する筑前・豊前の国境線にかかる場所に建っています。またこの国境石は現在も町境として生きており、しかも原位置を保っているということで、価値があると考えられます。

